

平成 29 年 9 月 29 日

林 野 庁

近畿中国森林管理局山口森林管理事務所における民間競争入札の入札結果等について

公共サービス改革基本方針（平成 28 年 7 月閣議決定）を踏まえ、平成 29 年度の国有林の間伐等事業については、第 188 回官民競争入札等監理委員会（平成 29 年 2 月 16 日開催）了承の実施要項に基づき、23 箇所を対象に入札を実施してきたところ。

このうち、近畿中国森林管理局山口森林管理事務所の入札実施箇所において、再度の入札においても不落となったことから、以下のとおり実施予定者を特定することとした。

1 経緯

(1) 入札手続について

初回及び再度の公告及び入札手続きに係る日程は下表のとおり。

区 分	初回入札	再度入札
入札公告	平成 29 年 4 月 19 日	平成 29 年 6 月 26 日
現場説明	平成 29 年 5 月 17 日	平成 29 年 7 月 6 日
企画提案書等提出期限	平成 29 年 5 月 26 日	平成 29 年 7 月 12 日
競争参加資格確認兼企画提案採否通知	平成 29 年 6 月 1 日	平成 29 年 7 月 26 日
開札	平成 29 年 6 月 21 日	平成 29 年 8 月 9 日

(2) 入札結果について

- ① 初回公告の現場説明会には 1 者が参加、当該者から企画提案書の提出があり、必須項目を満たしていたため、開札したところ、入札価格が予定価格を上回り不落となった。直ちに再入札を行ったが不落となった。
- ② 再度公告の現地説明会には初回公告と同じ 1 者が参加、当該者から企画提案書の提出があり、必須項目を満たしていたため、開札したところ、入札価格が予定価格を上回り不落となった。直ちに再入札を行ったが不落となった。

区 分	初回公告による入札	再度公告による入札
入札説明書の交付	HP による対応	HP による対応
現場説明会参加	1 者	1 者
企画提案書等の提出	1 者	1 者
入札開札	1 者【不落】	1 者【不落】
再入札開札	1 者【不落】	1 者【不落】

2 聞き取り結果と再度公告の対応について

(1) 初回公告による入札終了後に、応札者から入札価格の考え方について聴取したところ以下のとおり（詳細は別紙1参照）であり、本事業を通じて損失を生じる可能性がないように経費を積算した結果、予定価格を上回ったと考えられる。

なお、再度公告による入札後の聞き取り結果でも同様の回答が得られている。

- ・ 初年度の事業期間が短いことや、冬期間の作業が不可能となること等を想定し、通常より多くの作業人員の確保が必要。
- ・ 想定した以上に路網総延長が伸びたこと、岩石地が多いと見込まれたこと等により、路網整備のコストを多く見込んだ。

(2) 上記については、実施箇所の面積や集造材材積の数量など、実施要項に定める事項の見直しにより改善できるものでなく、さらに、予定価格に関しても、現地調査を踏まえ、標準的な作業システム及び森林作業道の線形、延長距離により行っていることから、特段の見直しは行わず、実施要項の5の(3)に基づき再度公告による入札を実施したところである。

3 実施者の特定等について

(1) 再度公告による入札においても不落となったことから、実施要項5の(3)に基づき当該事業の実施方法について検討したところ以下のとおり。

- ① 再々度の公告による入札による実施予定者の特定については、初年度の事業期間が取れなくなることから困難
- ② 事業の中止については、当該箇所より集造材される丸太の販売による収入について今年度の国有林野事業の収入計画に計上しており、全く不実行となると問題

(2) このため、再度公告による入札参加者（1者）と協議を行い実施予定者の特定を行うこととし、調整を図った結果、予定価格の範囲内で実施要項等と同様の条件で事業を実施できることが確認できたことから、当該入札参加者を実施者として決定したところである。

(3) なお、本件の応札者からの聞き取りでは、公告時期の前倒しや、公告から入札までの期間の短縮について意見が出ていることから、これらの公告時期や期間設定については、これまでに一定の見直しを行ってきたものの、本年度実施箇所の状況の把握及び分析とあわせて、次期実施要項等の策定に向け検討していくものと考えている。

(別紙 1)

応札者からの聴取の概要

近畿中国森林管理署山口森林管理事務所において実施した民間競争入札に基づく国有林の間伐等事業の応札者からの聞き取りによる。

応札額等算出にあたっての考え方	回答者
<ul style="list-style-type: none">○ 初年度の事業期間が短く、かつ積雪で冬期間の作業が不可能となることも想定される中で、集造材材積について契約額の2割を超える相当量を確保するため、通常より多くの作業人員の確保が必要となり人件費を多く見込んだ。 ○ 活用型の保育間伐箇所が点在し、想定した以上に路網総延長が伸びたこと、また、当該線形上に施工しにくい岩石地が多いと見込まれたこと等により、路網整備のコストを多く見込んだ。	A社

注) 初回公告による入札後、再度公告による入札後ともに同様の回答。